

猿新聞

編集・発行者
山村 準
tel: 0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

発行部数
錦生地区：100部
赤目地区：200部
各公民館：140部
名張市議会：20部

獣害解決の早道

森林整備・里山再生

人類の歴史は、野生鳥獣との関わり方の歴史と言っても過言ではありません。

日本人も、太古からこの国に住む野生鳥獣とは深く関わりをもつて暮らしてきました。

日本列島においては、旧石器時代や縄文時代には狩猟が、植物採集や漁労活動とともに主要な生業であったと考えられています。

縄文時代の人間は、他の動物と同じように自然の食物連鎖の中で暮らしていましたが、すでに人間は、食物連鎖の頂点に立っていたと思われまます。

弥生時代に稲作農業が本格的に始まると、これまで山の幸であったシカやイノシシは、害獣として人々を悩ますようになります。

縄文時代は、すでに犬（縄文柴犬）は飼われていて主に狩猟に、弥生以降は狩猟だけではなく、今でいう有害駆除にも使われていたと考えられます。

代におけるの獣害は、まさに死活問題です。人間はそれに対して、さまざまな工夫をこらし乍ら、作物と自分たちの命を守ってきたという、農業と害獣の因果関係は、太古から続いていて、野生動物との日々の営みが生活習慣や文化にまで影響を及ぼしながら現代に至っています。

今日、直面している野生動物とのトラブルの原因も、その延長線上にあると思いますが、一つ違うのは、人間は長い歴史の中で、有限資源を浪費。それが自然破壊につながり、野生動物の生息域をも縮めてしまったことです。

これには、「人間が生きていくため」に、という大義名分がつきますが、野生鳥獣から見ると大きな自然破壊につながっています。

近年、野生鳥獣による農業被害が深刻化し、私たちは、野生動物との関わりを考え直す必要性に迫られています。

鳥獣害問題は、環境の再生・保護、生態系保全という方向から取り組まなければならぬ問題です。

中山間地域では、いま、里山が地域社会に占める重要性を見直され、里山の再生が極めて重要な課題として提起されています。

里山は、人間の住む集落と動物が住む山との中間的な世界であり、共生的な空間として生物の多様性を、絶妙なバランスで育んでいたところだったのです。

日本の原風景・心のゆたかさを育んだ里山が、今、全国各地で荒れています。それにもなつて日本の生物多様性がそこなわれ、土砂災害や農業への鳥獣害被害なども起きています。

今や鳥獣害問題は、鳥獣による人間に対する一方的な加害ではなく、その背景に人為的な自然破壊が前提にあるという決意を忘れてはなりません。

鳥獣害問題解決の道は、森林整備・里山再生に尽きると考えます。鳥獣害問題は、今を生きる私たち自身が解決し、次世代につないでいかなければならぬ環境問題です。

侵入防止柵

昨今の野生動物対策は、野生動物の保護管理という色合いが強くなり、被害を解消しながら、なおかつ野生動物・自然環境を保全するというのが主流となっています。

対策の基本は、野生動物が田畑に出てきにくい環境作りが第一です。

比、設置が簡単で価格が安いという利点があります。

設置の基本的には、野生動物の生態と習性をよく知ることが必要です。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。

また、コストや施工性などの対応も考えられます。



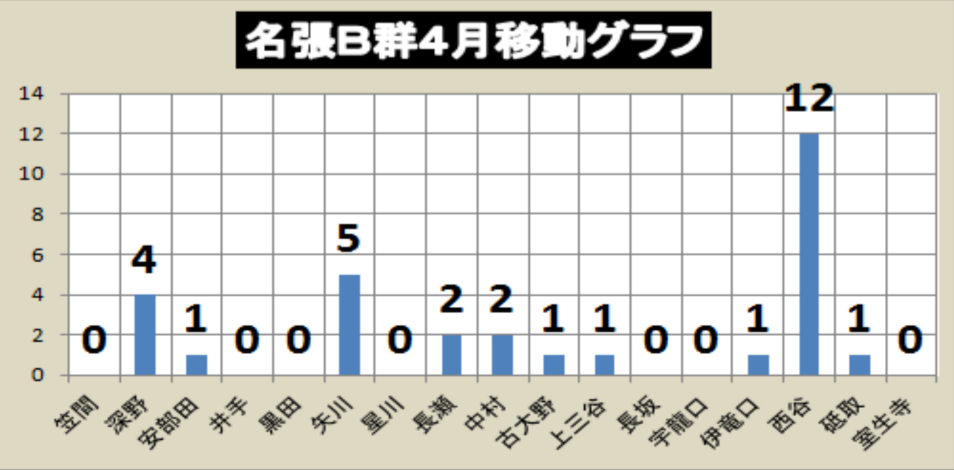
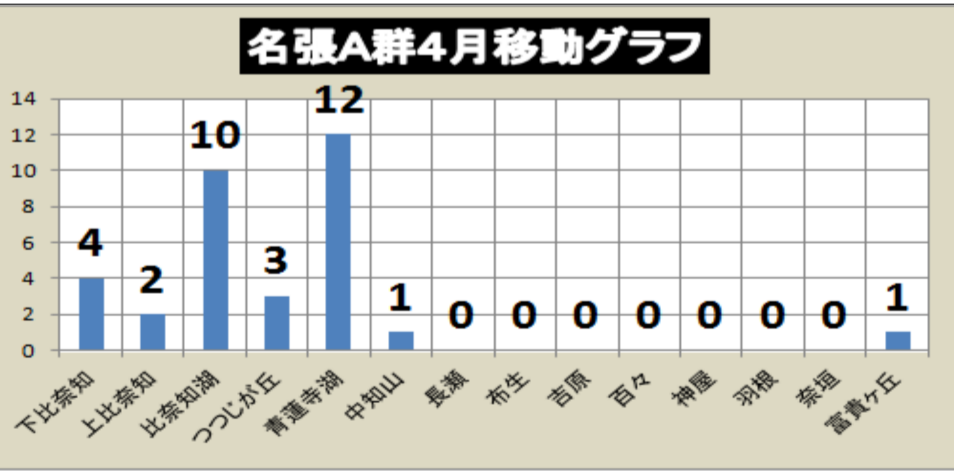
稲荷神社取り巻く柵？
名張市小波田で



捕獲檻と共存？
名張市矢川で



屋根付き多目的柵
名張市矢川で



名張A・B群

平成27年度モニタリング結果

群	種	頭数	
A群	オトナオス	3	
	オトナメス	16	
	ワカモノメス	3	
	コドモ	16	
	アカンボ	9	
	ハナレ	4	
	大量捕獲数	24	
	捕獲後推定数	25	
	(現在捕獲中)		
	B群総数		40
オトナオス	3		
オトナメス	12		
ワカモノオス	2		
ワカモノメス	1		
コドモ	17		
アカンボ	5		

サルの出没状況

名張A・B群

大量捕獲数27頭
有害捕獲数5頭
捕獲後推定数7頭
(捕獲終了)

今回の大量捕獲により両群共、個体数が減少し群管理は、し易くなり被害の軽減が期待されます。

発信器装着個体は、捕獲後、放したようですが、群れに合流しているのでしょうか？

群れの個体が極度に減少すると、遊動域を他の群れから守れないかも？。動向に要注意。

指南員報告

4月のサルの動向

A群は、4月初旬までは青蓮寺湖で、中旬は比奈知湖。後半はまた青蓮寺湖周辺で活動しています。

4月4日にはオトナと子供コドモ11頭を捕獲しています。また、比奈知ダム

の親水公園でさくら等の花びらや新芽を菜食している現場を目視もしています。

B群は、4月初旬は、宇陀市の西谷地区周辺で活動していましたが、11日〜13日頃、矢川や一ノ井地区で受信がありました。

14日以降は三本松周辺から西谷周辺を遊動しています。